



ボクシング部

■ 1929年(昭和4年)公認

部員数

9名



部長
片岡貞治
国際学術院
教授



監督
岩崎 仁



主将
後藤 蒼雄
法学部
早大学院

ボクシングは、二つの拳にグローブをはめて殴り合う格闘技です。身体や足を使ってパンチをよけたり、ブロックしたりなどする高度な技術が要求される芸術的なスポーツでもあります。ボクシングは自分と向き合うことで、人間性を修養する格闘技です。3分3ラウンドの試合にその修養は結晶するまで変わっていきます。

今年度の最大の目標はやはり12月に行われる伝統の早慶戦であります。現在、連敗中ですが、何れも紙一重の敗戦でした。部員たちは、永遠のライバルである慶応に何とか雪辱を果たすべく、この一戦に狙いを定め、日夜、正に臥薪嘗胆の思いで、死に物狂いで、激しく且つ密度の高い練習を繰り返してきました。部員たちのこの堅忍不拔の努力が報われることを願ってやみません。最後に、2025年度も頑張った女子部員の健闘を称えたく存じます。

4年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

後藤、巖田、石川の3名は、大学から本格的にボクシングを始め、ケガや体調不良といった困難にも負けず、最後まで競技に真摯に向き合いました。その姿勢は、後輩たちにとって大きな手本であり、学ぶべきものです。後輩の皆さんには、先輩たちの背中から多くを感じ取り、さらなる挑戦と努力を重ねてほしいと思います。強い選手と積極的に向き合い、自分に足りないものを戦で感じる。そして何より、どんな目標にも「意志」と「行動」がなければ乗り越えないことを忘れないでください。

4年生の皆さん、これまでボクシング部を支え続けてくれて本当にありがとうございました。皆さんの努力と誠実な姿勢が、部の雰囲気を実感し、良い方向へ導いてくれた。心から感謝しています。

新しい道でも、その強い意志と努力の力で、さらなる飛躍を遂げられることを願っています。

私はこの4年間で、ボクシングをする人間には2つのタイプがいると気付きました。己の強さを証明したい人と、弱い自分を乗り越えたい人です。チャンピオンを目指すだけの実力がなく痛感しながらも、毎日汗を流し続けた私は、間違いなく後者でした。何度も壁にぶつかり、悔しさを味わうこともありましたが、そのたびに立ち上がり、弱さに向き合うことで少しずつ成長を重ねてきました。4年前、部の門を叩いた時よりも確かに強くなった今、穏やかな気持ちでグローブを片すそうと思います。

多大なるご支援を賜りました監督・コーチの皆様、並びにOB・OGの皆様にも、心より深く感謝申し上げます。



主務
一丸 陽将
スポーツ科学部
早稲田

はじめに、多大なるご支援を頂いた監督・コーチ、OB・OGの皆様にも心より感謝申し上げます。選手として活動しながら主務を勤めることは想像以上に大変なものでしたが、多くの方々に助けられ、無事に一年間やり遂げることができました。この一年を通じて、競技に打ち込める環境が多くの方の支えによって、成り立っていることを改めて実感しました。この経験は今後の私自身の糧になると確信しております。今後とも部員一同、高い目標を掲げ、皆様のご期待に添えるよう日々努力してまいります。どうぞ引き続き、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

- ◇2025全日本ボクシング選手権 (11月24日~30日)
 - F級(11/27)
 - ▷石川高佳(スポ4)ベスト8

